

運動の伝承に関する研究

—効率的な逆上がりの教え方を求めて—

植田 裕己 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 柴田 俊和

キーワード：逆上がり 遊びの場の形成 効率的な指導法

1. 緒言

筆者は小学生に「逆上がり」を教えてほしいと言われ練習に付き合ったことがある。初めは簡単に習得させられるだろうと考えていたが、いくら指導しても逆上がりを習得させることができなかった。筆者は、逆上がりというものができない状況になったことがないので何がいけないのか理解できなかった。教職を目指す中で、子どもに逆上がりを習得させることができないのは致命的だろう。

そう悩んでいたときに、インターンシップ先の小学校の先生が同じ悩みを持っていることを聞いた。長年教師をしている人でも逆上がりを習得させることは容易ではないのだ。理由として、指導法がわからないこともあるが、逆上がりだけにこだわる時間がないことも問題であった。

本研究では効率的に逆上がりを習得させることのできる指導法を見出すことを目的とした。

2. 研究方法

逆上がりできない児童を抽出し、全員に同じ指導を施すのではなく、グループにわけて指導する。本研究では4つの指導方法を実践し、どの指導法が効率的であるかを検証した。

東近江市立K小学校の協力を得て、実験的指導実践を10月5日から毎週水曜日に8日間行い、1年生の児童10名を対象に、逆上がりの観察データや映像記録を収集した。得られた資料と各指導法での習得率から、どのような指導法が効率的であるかを分析・考察した。

3. 結果と考察

指導法3. 迂回路学習を用いた指導で配布されたチャレンジカードにより、難易度の低い練習課題から基礎技能を習得でき、鉄棒が児童の遊びになり、自発的に練習する児童の姿が多く見られた。指導法4. 別の指導者(被験者の友人)の導入では、児童の友人を指導者として導入することで、筆者ができなかった児童の逆上がりの習得がスムーズに行われた。このことから、遊びの場の形成は、児童の自発性を引き出すこと、児童同士の教えあいの場を設けることで、児童の学習の機会を増やすことができる。その中で、技術指導などの直接的な指導だけでなく、友人とのかかわり方や、時間・場所の提供などの間接的な指導を行うことが重要になる。

指導法1. 筆者の感覚を基にした個人指導は、基礎技能を修得している児童には成果を出したが、初めから習得させる場合は基礎技能からの指導になるため、効率的ではない。指導法2. 逆上がり実施時の動作を参考にした指導は、踏切り動作のみしか分析できておらず、指導法として用いるには更に分析する必要がある。

4. まとめ

遊びの場の形成による練習は、時間のない教員にとって効率的であり、学習者にとっても友人との交流や教え合いでの技能の向上といった効果が期待できる指導法である。

参考文献

金子明友(2002) わざの伝承 明和出版